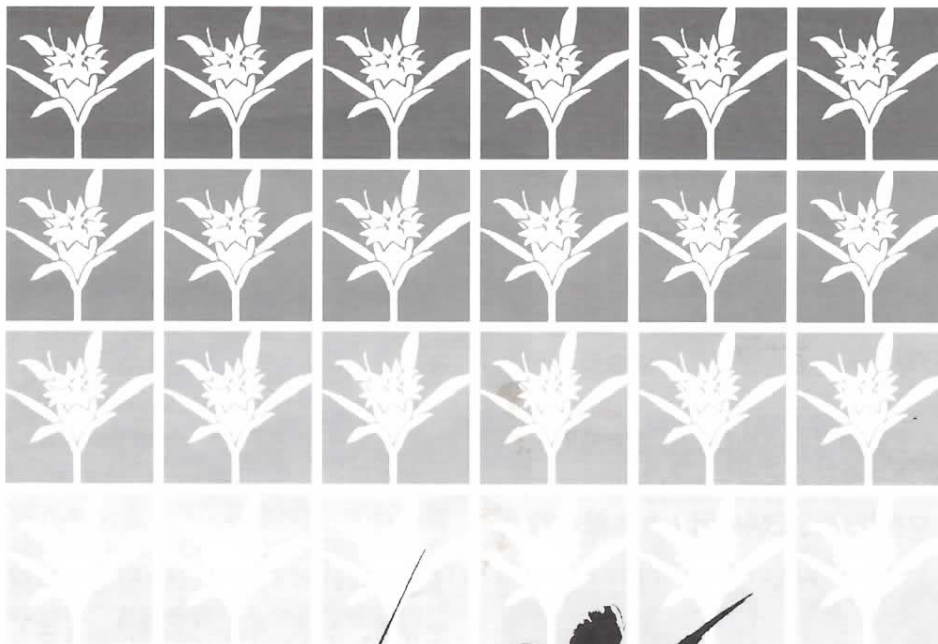




10の花

同窓会報

第 11 号

平成19年度総会・懇親会のお知らせ

日時 5月26日(土) 受付 午後1時30分～
総会 午後2時～3時
懇親会 午後3時～5時
場所 三井ガーデンホテル ☎: 043-224-1131
(旧ホテルサンガーデン千葉・千葉パルコ前)
会費 7,000円

懇親会だけの出席也大歓迎です。恩師の先生方にも多数ご出席いただいております。

卒業生はどなたでも出席できますので、お誘い合わせの上ご来場下さい。

お問合せ・お申込みは、5月15日までに同窓会事務局へ。(☎: 043-251-9221)

「シャロンの花」は校歌の歌い出しです。

昭和26年、創立10周年記念に制定されました。当時教頭でいらした沢田繁二先生作詞のこの校歌は、他校にはない美しい響きを持つ詩で綴られています。同窓会報を創刊するにあたり、懐かしい言葉「シャロンの花」をタイトルにいたしました。

シャロンは、イスラエル西部の地名です。その地に咲く白い可憐なシャロンの花は、旧約聖書で「純潔」の象徴とされています。

平成19年3月8日発行

(表紙タイトル・イラストデザイン 昭和35年卒 北川広志)

発行者 千葉県立千葉東高等学校
同窓会会長 井戸川 浩

編集部 千葉県立千葉東高等学校同窓会事務局内
〒263-0021 千葉市稲毛区轟町1-18-52
TEL 043-251-9221 FAX 043-255-6575

印刷所 ㈱宮坂印刷 TEL 043-251-4537 FAX 043-251-4535

同窓会報「シャロンの花」 第11号発刊ご挨拶

千葉県立千葉東高等学校同窓会
会 長 井戸川 浩



恩師の先生方はじめ同窓生の皆様、お元気でお過ごしでしょうか？

同窓会報「シャロンの花」第11号をお届けいたします。
また、本年新たに卒業された皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。

皆さんを伝統ある本校同窓会の会員としてお迎えするにあたり、心から歓迎の気持ちを表したいと思います。

母校が、卒業生や在校生、並びに何よりも献身的で

~~~~~



## ご 挨 拶

校 長 五十嵐 和廣

同窓会の会員の皆様方におかれましては、日頃より母校の教育活動に多大なるご理解、ご支援を賜り誠にありがとうございます。厚くお礼を申し上げます。校長として千葉東高校に着任して間もなく1年が過ぎようとしておりますが、国政、県政レベルでの教育に係る様々な変革やうねりの中で、本校が多くの方々のご期待とご支援を受け、着実にその力と成果を伸張できていることに対し感謝の気持ちと充実感でいっぱいであります。

さて、折角の機会でありますので、着任以来、私が生徒達に申し上げてきたことの一端について述べさせていただきます。端的に申せば、それは、會津八一の学規（ふかくこの生を愛すへし。かへりみて己を知るへし。学藝を以て性を養うへし。日々新面目あるへしの四箇条）を通して示されている学ぶ者に対する心得であります。生涯学習の概念がすでに定着している現在、学ぶ者は決し

適切なご指導をいただいた優秀な先生方のご尽力で、輝かしい歴史を刻みつつあることをこの会報でご確認下さい。

同窓会は、卒業生の皆さんからの寄付で運営しております。同窓会報「シャロンの花」が脆弱な財政基盤の中で11年の永きに亘って発行できたのも、母校愛溢れる同窓生の皆様からの継続的な寄付のお陰と心から感謝申し上げます。母校と同窓生、同窓生同士を結ぶ“シャロンの花”の発行には、印刷費用よりもお一人お一人にお届けする送料の負担が最も大きく響いています。

どうか、今後も同窓会活動への温かいご支援をお願いいたしますとともに、会報「シャロンの花」を通じて母校の発展を見守り続けて下さい。

て児童、生徒、学生の範囲に留まるものでないことは言うまでもありません。その意味で、この学規は生涯を通じての生き方の心得、人生訓として捉えるべきものと考えます。特に、「ふかくこの生を愛すへし」は、いじめ等による自殺、幼児虐待、殺人事件の数々など命の大切さがことさら問われる社会状況の中で、深い意味をもつものであると考えます。自分の命も他人の命も全く同様のものと認識し、すべての生き物の命を尊重すると同時に、生きていること自体を愛するという積極的精神は、今、私たちがあらためて再認識する必要があります。私は、本校から巣立っていく生徒が、まず豊かな人間性、人間愛を持つ人であってほしいと願っております。

また、「学藝を以て性を養うへし」は、まさに学問や芸術、スポーツを志す生徒や学生にダイレクトに語りかけるものであります。私も学問することの目的に、己の内面を磨き、鍛えることがあると考えますし、受験というハードルも自分を磨く一里塚であると考えています。

千葉東高校は、今後ともそれぞれの社会で活躍できる「骨太」の人間づくりを目指して進んでまいります。変わらぬご支援をいただければ幸いです。

西千葉 県立千葉東高校前入る

はり・きゅう・あんまマッサージ・指圧

# 湯浅治療院

日・祝日も診療  
出張は夜12時まで  
＝定休日 金曜日＝

☎ (043)251-8425 (治療室)  
252-2009 (自 宅)

〒260-0044 千葉市中央区松波4-13-6



## 千葉セラミック工業株式会社

代表取締役社長 森 信一

(昭和29年卒)

〒263-0031 千葉市稲毛区稲毛東2-10-14  
TEL. 043-243-7321 FAX. 043-247-7451

# 平成18年度 千葉県立千葉東高等学校同窓会総会報告

平成18年5月27日(土) ホテルポートプラザちばにて、来賓・会員約70余名が参集して同窓会総会が開催されました。

高橋副会長の司会進行によって総会が始まり、井戸川会長から「お忙しい中、母校同窓会総会にご出席をいただきありがたい。また会報発行、母校教育活動支援等の同窓会事業に温かいご支援とご協力をいただき感謝に堪えない。昨年お願いした千葉県が主催する“きらめき総体”への山岳部の出場への支援については、同窓会の寄付を始め、関係各位のご尽力と選手生徒の活躍により、“開催県男女アベック優勝”という快挙となって結実したことを、喜びを持ってご報告したい。また、大学進学率は飛躍的に向上し、正に“文武両道”を実現している。

感な少年期の人格的成長を図る精神性の高さを求めている母校生徒を将来のリーダーとして育成するために母校とともに同窓会もささやかな支援をしていきたい。今後引き続き物心両面にわたる温かいご支援をお願いしたい」旨、挨拶があり、続いて五十嵐名誉会長(新任校長)から「新任校長としての決意表明と、母校生徒の進学状況の報告と、きらめき総体での山岳部の快挙の裏に同窓会からの支援があったことへの謝辞」を頂きました。

続いてご来賓の須田義男先生(元校長)から、「何箇所かの高校を楽しく体験(歴任)したが、東高が昭和56年から58年まで現役としての最後の楽しい勤務だった」こと。「こうして元気で(卒業生)の皆さんと会えるのは嬉しい。文武両道で母校が発展している姿を見ると、同窓会長、校長、職員、旧職員、同窓生の皆さんの努力に感謝し、明るい気持ちで生活できる。(同

窓生が)社会的にも活躍していることは、在校生としても励みにもなる。そうした良い循環を期待し、更なる発展を祈る」旨、心温まるご挨拶を頂きました。

続いて、小塚常任幹事を議長に選出し、すべての報告審議事項が提案通り承認され、総会は滞りなく終了しました。

引き続いて懇親会に入り、井戸川会長から「(総会は)クラス交流、同期交流、クラブ等の異学年交流等の場。ビジネスや趣味など思わぬところに思わぬ人がいたりして、新たな絆が生まれる場でもある。東高という根が同じ仲間、同期、先輩、後輩の出会いを生かして欲しい。今年度懇親会は今年還暦を迎える第15回生(昭和39年卒)の同期の皆さんに懇親会の運営をお願いした。年々還暦を迎える方々に懇親会の運営をお願いしていく」旨の表明があり、アトラクションに入りました。

第15回生(昭和39年卒)の緒方さんによるジャズピアノ演奏とともに、県下有数のカラオケ名人吉橋重夫(昭和34年卒)さんに本年も再登場いただき、吉橋さんには、「下北漁歌」など5曲で、盛り上げていただきました。

最後に、参会者全員で恒例になっている母校の校歌を歌い、来年の再会を約して散会となりました。



## 貸ビル業

JR蘇我駅西口前

新月

千葉市中央区今井2-4-7

☎ 043-261-2850

大森啓護(昭和31年卒・野球部)

人間生命の運動法則を研究する科学

## 千葉人間科学協会

理事長 小塚興作(高校第11回卒)

千葉市若葉区桜木町330-50

☎ 043-231-9215

平成17年度千葉東高等学校  
同窓会決算書

総 収 入 ¥4,998,545  
総 支 出 ¥5,012,560  
残 額 ¥ 14,015 ▲…次年度へ繰越

収入の部

(単位：円)

| 項 目            | 収入済額      |
|----------------|-----------|
| 1. 会 費         | 1,899,000 |
| 2. 入 会 金       | 316,500   |
| 3. 前 年 度 繰 越 金 | 609,042   |
| 4. 同窓会活動維持基金   | 1,613,000 |
| 5. 雑 収 入       | 561,003   |
| 計              | 4,998,545 |

支出の部

(単位：円)

| 項 目          | 収入済額      |
|--------------|-----------|
| 1. 運 営 費     | 1,309,385 |
| (1) 会 議 費    | 67,900    |
| (2) 総 会 費    | 474,500   |
| (3) 通 信 費    | 234,245   |
| (4) 慶 弔 費    | 480,735   |
| (5) 旅 費      | 0         |
| (6) 雑 費      | 52,005    |
| 2. 事 業 費     | 3,703,175 |
| (1) 同窓会報発行費  | 2,904,575 |
| (2) 母校部活動支援費 | 648,600   |
| (3) 進路学習支援費  | 0         |
| (4) 海外派遣支援費  | 150,000   |
| 計            | 5,012,560 |

基金繰入金会計

平成18年 3 月末現在 ¥9,830,545

(単位：円)

| 項 目    | 収 入       | 支 出 |
|--------|-----------|-----|
| 前年度繰越金 | 9,830,545 | 0   |
| 利 息    | 2,362     |     |
| 計      | 9,832,907 | 0   |

創立70周年記念事業基金

平成18年 3 月末現在 ¥3,804,152

(単位：円)

| 項 目    | 収 入       | 支 出 |
|--------|-----------|-----|
| 前年度繰越金 | 3,804,152 | 0   |
| 利 息    | 5         |     |
| 今年度入金分 | 910,000   |     |
| 計      | 4,717,157 | 0   |

会計監査報告

平成17年度同窓会会計の出納簿、証拠書類  
及び預金通帳等を詳細に検査した結果、処  
理が正確であり支出も適正であることを認  
めたので、ここに報告致します。

平成18年5月15日

千葉県立千葉東高等学校同窓会  
会計監査 石井 洋子 印  
澤田 繁信 印

平成18年度千葉東高等学校  
同窓会費予算書

収入の部

(単位：円)

| 項 目          | 収入済額      |
|--------------|-----------|
| 1. 繰 越 金     | △ 14,015  |
| 2. 会 費       | 975,000   |
| 3. 入 会 金     | 162,500   |
| 4. 同窓会活動維持基金 | 1,600,000 |
| 5. 総 会 会 費   | 500,000   |
| 6. 広 告 代     | 150,000   |
| 7. 雑 収 入     | 200,000   |
| 計            | 3,573,485 |

支出の部

(単位：円)

| 項 目          | 収入済額      |
|--------------|-----------|
| 1. 運 営 費     | 1,090,000 |
| (1) 会 議 費    | 50,000    |
| (2) 総 会 費    | 500,000   |
| (3) 通 信 費    | 200,000   |
| (4) 慶 弔 費    | 300,000   |
| (5) 旅 費      | 10,000    |
| (6) 雑 費      | 30,000    |
| 2. 事 業 費     | 2,450,000 |
| (1) 同窓会報発行費  | 2,000,000 |
| (2) 母校部活動支援費 | 350,000   |
| (3) 進路学習支援費  | 30,000    |
| (4) 海外派遣支援費  | 100,000   |
| 3. 予 備 費     | 33,485    |
| 計            | 3,573,485 |



| 平成17年度事業計画実施状況                                                                                                                |  | 寺田校長から母校通信制移転に関し、山中副会長の協力<br>と尽力への謝辞。                                    |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--------------------------------------------------------------------------|--|
| 1. 総 会    平成17年 5 月29日（日）<br>ホテルサンガーデン千葉にて<br>80余名が参集して実施                                                                     |  | 総会後懇親会に関する検討会中間報告。<br>同窓会報「シャロンの花」作業進捗状況報告。                              |  |
| 2. 母校教育活動の後援、学校行事参加活動                                                                                                         |  | ・平成18年 1 月15日（日）<br>総会の日程と会費についての再検討。                                    |  |
| ①部活動（全国大会出場）支援    山岳部、通信制各部全国<br>定通大会                                                                                         |  | ・平成18年 2 月19日（日）<br>母校受験倍率2.29倍を超えたと報告。また、ラグビー部が<br>県 2 位となり関東大会へ進んだと報告。 |  |
| ②海外留学引率者支援<br>H18. 2.25から国際交流プログラム米国派遣団としてミシ<br>ガン州クラークストン高校へ派遣                                                               |  | 総会 5 月27日（土）16：00～、ポートプラザ千葉、会費<br>7 千円で決定。                               |  |
| ③対外試合・発表会等支援<br>H17. 9.25 音楽部関東合唱コンクール出場                                                                                      |  | ・平成18年 3 月12日（日）<br>午前、通信制卒業式。50年の歴史。卒業生延べ7400名。<br>本年308名との報告。          |  |
| ④卒業式・入学式・体育祭・文化祭等行事参列・参観等                                                                                                     |  | 同窓会総会 5 月27日（土）16：00から、ポートプラザ千<br>葉で開催。懇親会は昭和39年卒が中心になって実施と決<br>定。       |  |
| H17. 4. 7 全日制入学式参列                                                                                                            |  | ・平成18年 4 月16日（日）<br>寺田校長が五十嵐新校長に交代挨拶。                                    |  |
| H17. 4.17 通信制入学式参列                                                                                                            |  |                                                                          |  |
| H17. 6.15 マンドリン楽部定期演奏会参観                                                                                                      |  | 平成18年度事業計画                                                               |  |
| H17. 9.11 東雲祭参観                                                                                                               |  | 1. 総 会    平成18年 5 月27日（土）<br>ホテルポートプラザちば                                 |  |
| H17.10. 9 通信制体育祭参観                                                                                                            |  | 2. 同窓会会報「シャロンの花」第11号発行                                                   |  |
| H17.11.14 東雲ネット“さわやかミニトーク”参加                                                                                                  |  | 3. 同窓会・恩師対外発表会等参観支援・顕彰活動                                                 |  |
| H18. 3. 9 全日制卒業式参列                                                                                                            |  | 4. 同窓会維持基金、創立100周年祈念70周年記念事業基金等<br>募金活動                                  |  |
| H18. 3.12 通信制卒業式参列                                                                                                            |  | 5. 母校教育活動の後援、学校行事参加活動                                                    |  |
| 3. 同窓会会報「シャロンの花第10号」発行                                                                                                        |  | ①進路学習後援（先輩による実業界報告と懇談、事業所訪問<br>等）                                        |  |
| H18. 3. 9 “シャロンの花”第10号    20,000部発行                                                                                           |  | ②部活動（全国大会出場等）後援                                                          |  |
| 4. 役員会（主要決定事項）                                                                                                                |  | ③海外留学（短期ホームステイ）引率者後援                                                     |  |
| ・平成17年 7 月18日（日）                                                                                                              |  | ④対外発表会等参観・後援                                                             |  |
| 寺田校長からきらめき総体で山岳部が男女とも全国優勝<br>したことに、同窓会の長年にわたる支援に謝辞。                                                                           |  | ⑤卒業式・入学式・体育祭・東雲祭等行事参列・参観等                                                |  |
| 平成18年度総会後の懇親会について還暦組による実施<br>（案）が提案され、実現に向け前向きに検討開始。                                                                          |  | 6. 創立100周年祈念70周年記念事業推進活動                                                 |  |
| ・平成17年 8 月28日（日）                                                                                                              |  | 7. 支部発足支援活動                                                              |  |
| 寄付を頂いた同窓生・関係者様に対する礼状書き。                                                                                                       |  | 8. その他必要な活動                                                              |  |
| ・平成17年11月 6 日（日）                                                                                                              |  | 9. 役員会    原則隔月第二日曜日（8 月・1 月休会）                                           |  |
| 音楽部が関東合唱コンクール（朝日新聞社主催）高校の<br>部で金賞受賞、化学部員が日本学生科学賞の知事賞受賞、<br>寺田校長が11月 1 日に教育功労賞受賞の報告があり、前<br>例に倣い寺田校長には同窓会から記念品を差し上げるこ<br>とを決定。 |  |                                                                          |  |
| ・平成17年12月11日（日）                                                                                                               |  |                                                                          |  |

## OBバンザイ!!

活躍する  
母校卒業生

細谷 任道 氏 (理想科学工業(株)取締役《昭和39年卒》)

お正月シーズンになると必ず目にするあの“黄色いスグレモノ”。世界が驚いた逆転の発想。「プリントゴッコ」の開発者は母校卒業生だった。春めく銀座の一角で、細谷任道氏にお話しをお聞きしました。

(2007.2.5有楽町交通会館にて。聞き手：同窓会長 井戸川 浩)

## 30歳課長、開発期間たったの8ヶ月??

井戸川：どうも、お忙しいところをご足労いただきまして…。

細 谷：いえいえ、“シャロンの花”に掲載されるなんて光栄です。

井戸川：2万6千人を超える東高卒業生の中にはすばらしい人材がキラ星のごとくいるということをシャロンの花を通じて多くの卒業生に知っていただきたいと思っております。早速ですが、開発するに当たってどんな点でご苦労があったか、その辺からお聞かせ願えませんか。

細 谷：はい。私は昭和43年に千葉大の写真工学科を卒業して理想科学工業に入社し、霞ヶ浦工場でアイデア実験やインク研究などをしていました。そうこうしているうち、昭和50年12月30歳の時に、プリントゴッコの開発責任者にされたんです。プロダクトマネージャーといって、開発に関しては社長と同等のあらゆる権限を使って良いというものでした。

井戸川：その時からプリントゴッコという名前や「こういうものをつくりたい」というアイデアがあったんですか？

細 谷：そうですね。社長の頭には漠然とイメージがあったらしく、プリントゴッコという名称は昭和46年に登録してありましたね。ただ製品は陰も形もない。(笑)それから、これらに使われる個々の技術、例えばどんなインクを使うかとか、プリントする要領は社内にあるどういう技術が使われるかという、いわば基礎技術のようなものは漠然とあって、でも家庭でお母さんやお子さんが簡単にきれいなプリントが作れないか、みたいな…。それで「こんなものが作りたいからお前作れ」という命令で…。

井戸川：それは大変ですね。どんな技術をどう組み合わせて、どう改良して、しかも家庭用ですから安くしなければいけないとか、使い勝手は絶対よくなければならないとか…。

細 谷：そうなんです。しかも短期間でやれという。

井戸川：どのくらいの期間で開発されたんですか？

細 谷：51年の5月くらいからでしたから8ヶ月くらいで原型らしきものを開発しました。

## 逆転の発想、神がかりの取り組み

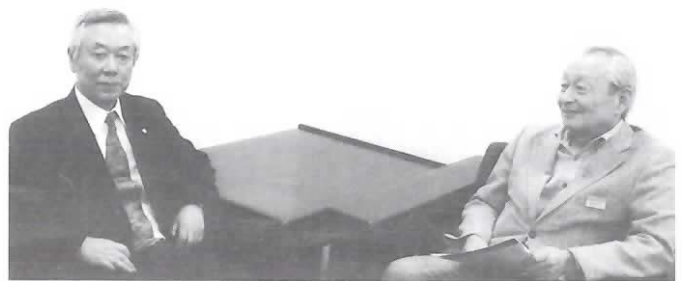
井戸川：えっ、たったそれだけの期間で、ですか。凄いことですね。

細 谷：はい、寝食を忘れて…というような状態でしたね。気がついたら明け方とか。その時は何か神がかりというか、自分でも良く分からないのですが、次から次へとアイデアが湧いてきて一種異様なというか大変な経験をしましたね。決定打は、あることを“逆にしたらどうだ”と考えたことです。というより実験の結果、これまでの常識の逆のほうの結果がいいと気付いたんですね。

井戸川：はぁ、正に“逆転の発想”ですね。

細 谷：はい、開発会議では、皆が反対というか消極的ですね。何せ30歳くらいで若いし、しかも社長と同等の権限があるといっても、もともとの課長や部長や役員さんの組織があって、それが既存の権限を侵されたくないというのか、意外な抵抗勢力になったことですね。でも、社長が「これで行こう」と後押ししてくれて、この時の社長の判断がなければ、プリントゴッコは世の中に出ていませんね。

井戸川：なるほど。トップの経営判断は大事ですね。名前の通り開発研究型の会社のトップだからできたことだともいえますね。



## ゴッコ遊びは民族の財産

細 谷：そうですね。思いっきりやらせていただきました。しかも、ネーミングの“ゴッコ”には周りは皆反対でしたが、社長は「“ゴッコ”というのは、人間は小さい頃からゴッコ遊びで大人の世界を疑似体験しながら何かを工夫したり、考えたりして学んできた知育の源泉だし、ゴッコの精神は貴重な民族的財産なんだ」という考え方でした。それで、家庭でできる小型印刷機は家庭内の親の世界と子供の世界を結ぶ絆として、貴重なコミュニケーションツールなのだ。その後、ビジネスショーでも大好評で愈々9月に発売となり、わずか3ヶ月で6万台を出荷しました。品物が足りなくて全社を挙げて人海戦術で生産し、販売店には割り当て制になってしまうなどの嬉しい混乱もありました。

井戸川：そうでしたね。発売された頃、私も子供たちにせがまれて並んで買った記憶があります。今累計ではどのくらいの量になっていますか。

細 谷：そうですね。ピーク時は、昭和60年ごろですが、年間65万台です。開発後営業もしましたからよくぞここまで頑張れたと思います。その後パソコンに押されて衰退しましたが、累計では世界で1000万台くらいでしょうか。この時期の売り上げは、ずいぶん会社に貢献しましたね。今でも年間4～5万台は出ています。マニアックな方もおられて、多分独特の手作り感というか、温かみを感じていただいているのではないかと考えています。

井戸川：ご家庭でもお使いですか。

細 谷：そりゃあもう。(笑) 試作品を实际使ってみよ

うということで家族を動員、犠牲かな（笑）しましたからね。でも、子供たちは、プリントゴッコの生みの親として、私を尊敬してくれていますから、それが人生の最高の荣誉ですね。当時は娘の学校の先生までが、「安くして、早く手に入らないか」などと娘に迫った（笑）そうですから。

井戸川：すばらしい成果ですね。ところで、座右の銘とか、生活信条というか、そういうものがあったら教えてください。

## 目標は明確に、あいまいだと行動できない

細 谷：私は人生でも会社生活でも、「何をしたいか」「どうになりたいか」という目標を明確に持つことを信条としています。目標が明確になれば、そこへの効率的、合理的アプローチ方法は比較的簡単に見つかりますので、達成はより容易になりますから。実は、私は父の転勤の関係で埼玉県浦和高校からの転校生でした。当時は柔道をやっておりましたが、転校を機に東高校でラグビー部に入りました。ここはレベルが高かったですね。花園行き一步手前まで夢を見させてくれましたから。同級生では柳川君が早稲田でレギュラーになり、大西君は明治のレギュラーでした。一年後輩の伴内君という優秀なのもいましたね。今は流経大柏がライバルで、この壁を乗り越えないと花園は手繰り寄せられませんね。でも、「どうになりたいか」「そのためにどういう方法をとるのか」といった私の流儀も参考にして頑張りたいと思います。

## 思い出の学園 千葉東高校

井戸川：東高ではどなたか思い出の先生はおられますか。

細 谷：理系の私ですが、実は国語が得意科目で、奥山先生に大変ご薫陶を得ました。今日あるのはそのお陰ともいえる恩師です。前にシャロンの花で紹介された同期の山崎君（当時幕張プリンスホテル総料理長）が世話役をしてくれている東雲会という同期のゴルフ会にもご出席いただいています。あと、東高校は他校と異なり、男子生徒と女子生徒がとても仲良しというか良く助け合って成果を出しているという印象があります。転校生ですから余計にそう感じるのですが。

井戸川：奥山先生は教育長もされた立派な先生ですね。

~~~~~

特別インタビュー

母校は今...

五十嵐校長に聞く



第10号では寺田校長先生に学校経営の締めくくりとしての4年間の振り返りと新たな母校発展への期待をお聞きしました。

このたび、4月に、新任の校長先生として、五十嵐校長先生が着任され、新たな気持ちで学校経営にのぞむご方針についてお聞きしました。

(2006.11.30.母校校長室にて。聞き手：井戸川同窓会長)

昨年の同窓会総会にはご出席頂きましたね。そう、私の時も仲が良かったなあという思い出があります。のんびりしていて、がつがつしていないところが、物足りなさもあるけれど人間的には愛すべき人たちばかりだった…。そんな感じでした。正に学園生活。いまでも、母校を訪ねるとその雰囲気はありますね。昔より成績とお行儀がいいのは褒めていいと思いますが。（笑）ところで、同窓会の現状から何かコメントはありますか。

同窓会の働きに期待

細 谷：生徒が優秀になっていくので我々も鼻が高いです。前に同窓会の財源が窮乏だという記事を見て、早速寄付させていただきました。

井戸川：や、それはありがとうございます。そういう浄財でささやかな母校後援をしているわけですが、ほんとに後輩たちはよく頑張ってくれています。我々役員は手弁当で報われることは何もないし、それが当たり前なのですが、同時に校長先生や教頭さん事務長さん、それに同窓会係の先輩、今は書道の林先生ですが、そういう方々が日曜日の役員会にご同席頂くなど先生方からも献身的なご協力を頂いています。それぞれ、母校愛だけで今日まで頑張っているわけですが、これからもご後援を宜しくお願いいたします。

細 谷：はい。寄付をしたらそれに見合うものを下さいという精神ではいけないと思います。やはり、校風というか東高らしい文化を継承させていって欲しいと思います。そういう意味で“シャロンの花”の発刊とか総会の実施など役員の方々は大変だと思いますが、更なる活躍を大いに期待しております。

井戸川：はい。心して使わせていただき、ますますの発展を肝に銘じて取り組みます。文化祭というか、ここでは東雲祭といっていますが、是非足を運んで参観してやってください。生徒がのびのびしながらもビックリするような想像力を働かせて、とても面白くしかも教育的に見ても興味深い取り組みをしていますので。マンドリン楽部やブラスバンド、音楽部もレベルが高く楽しいですよ。

細 谷：それは楽しみです。心がけて是非参観しましょう。
(完 文責：編集部)

同窓会の支援活動に感謝

井戸川：いつも同窓会の活動に暖かいご理解をいただきありがとうございます。

今日は、新任としてご着任から半年が経過し、母校の状況も把握されたと思い、学校経営に関する五十嵐先生のご方針などお聞かせいただこうと参りました。

五十嵐：先ず、はじめに、同窓会、広くは同窓会会員の皆様というべきでしょうか、そうした皆さんからの本校に対する物心両面にわたるご支援に心から感謝の意を表したいと思えます。着任してはじめて思ったことですが、本校の同窓会は他校のそれとは少し趣を異にしており、これほど学校運営に協力的な同窓会はないなという感想を持ちました。

井戸川：それはありがとうございます。同窓会が母校の



発展を願うのは当然であり、発展とはそもそも何かというと、在校生が教育目標である“文武両道”を実現できることだろうと思います。

そのためには、入学時の資質の良さ、素直さなどの性格面の特質はあるものの、人間的にも社会的にも未熟ではあるが多感な15歳から18歳の生徒が、3年間という限られた時間の中で、優秀で熱意と指導力のある先生方の良き指導を得て、初めて大きな成果を生み出す生徒に変貌します。そうした生徒がいずれ各界で活躍し始めたとき、改めて指導に当たった先生方やそういう先生を擁する組織への敬意と感謝の気持ちを持つでしょう。

母校の卒業生として母校の先生を敬い母校を懐かしむ、後輩の面倒を見る、中には先生になって母校の生徒を直接指導する、そういう良き循環が期待できると思います。

それは、詰まるところ先達である卒業生やそれらを含めた社会一般に対する敬意と報恩の念を形成するに違いないと思います。

私たちはそうした循環型指導環境実現のほんの些細なご協力をしているわけです。

さて先生、この“文武両道”の実現のために具体的にはどのような活動をご計画でしょうか？

全人教育としての“文武両道”

五十嵐：私たちは、教育目標として「知育・徳育・体育のバランスを極めて高いレベルで実現し、全人的で視野の広い人間の育成に努める」ということを標榜し、それを“文武両道”と表現しています。知のレベルが高いほど、徳・体のレベルも高くあらねばなりません。教育の基本コンセプトとしては、「勉強のできることは大切であるが、それよりも全人教育というか人間としての本質的なもの、根源的なものを学んで、個人として自立した人間になって欲しい」と希望し、これを「教養の復興」と名づけ、生徒や保護者の理解を得つつあります。

具体的には、徹底した指導により基礎学力の充実を図り、一人一人の生徒の自己実現を図る、すなわち自己の望む進路への到達を支援し、更に、部活や国際交流など特別活動への積極的参加を促し、社会性や人間性豊かな生徒の育成を図ることです。分かりやすく申せば「人間性豊かな骨太人間」の育成ということになるかと思います。

井戸川：素晴らしいコンセプトですね。学校の本館前にも、「教養の復興」というスローガンが、看板にして掲げられていますから、生徒は誰でもこれを見て、知らず知らずのうちにそうした気持ちになっていくでしょうし、現実にもそういうことが日常の勉強や部活・各種委員会活動等に生かされているのでしょうね。ところで、進学指導重点校としての今年度の生徒の進学状況はいかがですか？

県下一位の飛躍的な現役合格率 76.6% (前年68.9%)

五十嵐：進学指導重点校として指定された成果は、下表の通り大学の合格率に顕著に現われました。下表のごとく平成15年度に指定校になってから平成16年度は現役合格率68.9%と11ポイントも伸ばし、平成17年度には現役合格率76.6%と前年を7.7ポイントも上回る顕著な結果になりました。これは前年度に続いて県下一の実

績です。

年 度	国公立大学	私立大学	現役合格率
H 13 年	73名	412名	56.9%
H 14 年	59名	333名	53.7%
H 15 年	81名	402名	58.0%
H 16 年	106名	423名	68.9%
H 17 年	96名	630名	76.6%

H15年度から見れば18.6ポイントの上昇で、正にこの2年間で“飛躍的”と形容してもおかしくない現役合格率になったと思います。尚、昨年に続き3割近くが国公立現役合格というすばらしい結果ももたしました。今年度からは、50有余年の歴史を誇る通信制が独立校として大宮へ移転し、本校は全日制の普通科単独校に脱皮しましたのでこれまで以上に進学指導重点校としての役割を果たしていきたいと思います。

井戸川：年々現役合格率が上昇しているということはすばらしいことですね。これらの成果の原因としてどのようなことが挙げられると思いますか？

様々な要素の相乗効果の結実

五十嵐：まず、進学指導重点校という本校が目指す方向性が、学校の内外に明確に示されたということで、そのため、本校に入学してくる生徒、保護者、中学校関係者、教職員の意識を一致させることができたこと。また、県教委の施策として、重点校に意欲と指導力、教員としての資質のきわめて高い教職員を迎えることができたこと。学区が拡大され、より広い地域から優秀な生徒が入学するようになったこと。更に、先生方の努力により、各種補習の充実や入試において質の高い自校作成問題を課すことができたこと等々、様々な要素の相乗効果が発揮されているためであると考えています。

教室に冷房 PTAと同窓会に感謝

五十嵐：環境整備の点では、生徒の教室に空調が設置されたことが大きいです。前年までは、夏の暑い時は冷房の無い教室で大汗をかきながら、先生方も生徒とともに頑張ってくれたんですが、今回はPTAの皆さんの肝煎りで冷房装置が設置され、比較的過ごしやすい教室で生徒とともに勉学に励み、指導にも熱が入りました。設置については、業者との契約の問題などの法的な問題を会長さんの会社の弁護士さんに大変お世話になり、ありがとうございました。

井戸川：いえいえ、たまたま弁護士会の会長をされたり、勲章を頂いたような著名な良い先生が私どもの会社の顧問弁護士さんだったので、お役に立てて幸いでした。さて、今後の学校運営の基本的な考え方についてお聞かせいただけませんか？

「学規」を軸に多彩な教育活動を展開 特色ある学校作りをする

五十嵐：先ず、生徒にも就任挨拶の中で申し上げたことですが、私は、會津八一先生の「学規」の四か条を信条としています。それは、一. 深くこの生を愛すへし、二. かえりみて己を知るへし、三. 学芸を以って性を養うへし、四. 日々新面目あるへしです。本校の“全人教育”の考え方に最もフィットした考え方だと思いますので、生徒にも人間としての生き方を簡潔に言

い表した言葉として大切にしていって欲しいと思います。制度的には、H19年度には2学期制の導入、H20年度には単位制の導入をします。

目下具体的な中味を煮詰めている最中ですが、生徒個々の進路希望に、よりフィットした学習環境を整備していくということが可能になります。

また、生徒の将来に繋がる知的好奇心を高めるための高大連携（千葉大学の各学部の講座に生徒が出席したり、逆に千葉大の教授が東高に来て講座を開いたりといったこと）を一層推進していきたいと思っています。更に、インターンシップ制を活用して、生徒の将来希望領域の職場を体験させるなど、多彩な教育プログラムを積極的に取り入れていきたいと思っています。

また、先ほど申し上げた「全人的で視野の広い人間の育成に努める」という点に関しては、部活動はもとより、委員会活動、国際交流活動、各種学校行事への積極参加を促すことで多くの関係者との交流が促進され、結果として生徒の社会性や人間性の開発につながろうと思っています。

井戸川：最近では母校がいわゆる“進学ブランド校”化してきておりますが、一方で、世の中は昔の高度成長の時代のように“良い大学に入れさえすればよい”という時代ではなくなってきています。

“教養の復興”というコンセプトは重要ですね。受験

勉強だけでなく、未来を見据えた見識を養おうとするヤル気のある生徒にとっては夢の持てる多彩なプログラムだと思います。

これらの実現には何か課題がありますでしょうか？

教職員の負担に対する 適切なシステムの構築が課題

五十嵐：はい、これらの実現には熱心に指導に当たる先生方やサポートする事務職員たちの献身的な努力に負うところが大きいです。

しかし、教育公務員とはいえ、これらの方々も生身の人間ですから熱意の再生産を可能にするシステム作りが課題だと思います。

そういう意味でも同窓会の皆さんからの物心両面にわたる励ましはありがたいと思っています。

井戸川：はい、物心両面といいましても、“物”については今のところ財政的に厳しいところがありますが、ただ“心”については、そうした先生方の献身的な取り組みや熱意に対しては同窓会挙げて感謝の意を表したいと思っています。

この後も、世のため、人のため、社会の役に立つ人材作りにまい進してください。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。母校のますますの発展を期待しています。(完 文責：編集部)

東雲ネット・さわやかミニトーク

～学校・地域・家庭を結ぶ輪(和)～

千葉県県の施策として始まった学校を核とした1000ヶ所ミニ集会、本校では「東雲ネット・さわやかミニトーク」と名付け、今年で5回目の開催になりました。

11月13日(月)、松波商工振興会や轟町1丁目、4丁目自治会など近隣の皆さん、同窓会役員、PTA役員の皆さん、合わせて13名の方が参加して下さり、5時限目の授業を参観した後に、本校職員とセミナーハウスで懇談会が行われました。

このミニ集会のねらいは、地域の方々に本校の授業の一端を見て頂くとともに、教職員と身近な教育問題について本音のご意見を頂き、学校・地域・家庭を結ぶ輪(和)を広げようということにあります。加えて今回は千葉県教育委員会の指示により、県教委が策定を進めている「教育戦略ビジョン」に関連させ、次の4つのテーマについて話題にさせて頂きました。

- ① 子どもたちの学力向上について
- ② 家庭でできる健康・体力づくり
- ③ 学校、家庭、地域の連携について
- ④ これからの教育制度に望むこと

話題が抽象的にならず、本校生徒を念頭に置いた意見交換が出来るように、テーマ①については本校で実施しているスタディサポートの学習調査の結果、テーマ②についてはスポーツテストの結果、その他に昨年度実施した本校の学校評価アンケートの集計結果を資料として用意しました。

生徒の家庭学習の時間、基礎体力としての柔軟性の重要性、食生活、街作りと高校との関わり、防災対策といった様々な範囲に話題が及びました。勉強だけでなく、頑強な体力をつくる、友達をたくさん作る、そういった環

境を学校は提供して欲しいともご指摘を受けました。

時間制限のある中で、なかなか一つにまとめることは出来ませんでしたが、参加者からそれぞれ忌憚のない意見が交わされました。

私たち教職員にとっては、日頃の教育活動について別の視点から評価を頂くとともに、また広く教育制度全般に対する意見を頂いた一時でした。ご多忙の中参加して頂きました方々、有り難うございました。

(教頭 高橋 清英 S50卒)



有限会社

宇留間鐵工所

代表取締役 宇留間 稔

(昭和48年卒)

〒260-0833 千葉市中央区稲荷町3-8-7

TEL. 043-265-2331

FAX. 043-265-2311

東雲祭参観記

東雲祭は元気です!!

第43回恒例母校東雲祭は平成18年9月9日(土)・10日(日)の両日開催され、私たちは日曜日の午後に参観してきました。

例年思うことですが、校門を入りますと、今年はどうなお祭りが開かれているのか楽しみと期待で胸が膨らんでくるものです。

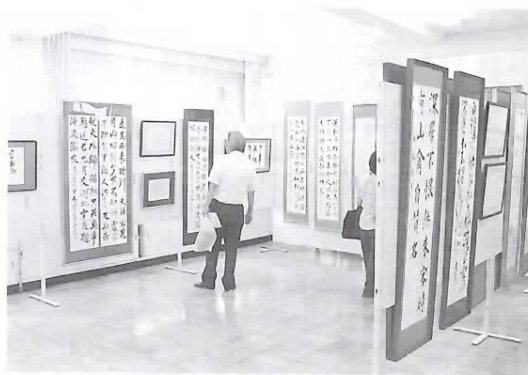


今年のテーマは「東RUN. (東高トウランドット)」です。あらかじめ校長先生から「今年は遊びでない質の高い文化の発表と表現を目指した文化祭ですよ」とお聞きしておりましたので、同道した小林、石橋副会長、市原書記とともに期待しながら校内を回りました。

今年の参加団体は24クラス、13部活、12同好会と有志グループ合わせて49団体。

加えてPTAによる「空調設備運営予備費」確保 (H18

年から各教室等に設置)のためのチャリティーゲーム、教員有志によるコンサートが行われ大盛況で活気に溢れていました。



参観者は例年より多いのではと思いました。時間の関係もあり、今回もすべてを拝見することができませんでしたが、3年生の演劇は評判が高く、また音楽部、吹奏楽部のミニコンサート、書道部、美術部、写真部等の展示鑑賞も楽しめました。

恒例になっている水泳部と有志によるウォーターボーイズによるシンクロがプール管理上の面から中止になったのがチョット残念でした。

でも、今年も各クラスが中心となり内容も良くまとまった東雲祭であったと感じました。

今回も同窓会報「シャロンの花」の記事を見たり、参観者等から話を聴いてきたという沢山のOBやOGの皆様ともお話しする機会がありましたが、年々卒業生の参観が増えているのは本当に嬉しいことです。皆様も是非参観してください。楽しいですよ!

今年参観し、全員が感じたことは、例年にも増して「若さとパワー」のあるとっても元気な東雲祭でした。

(同窓会副会長 高橋 一郎 高校第9回S32卒)

在校生 バンザイ!!

書道展で

「文部科学大臣奨励賞」受賞

千葉 藍さん(3年)は、お母さんの勧めで3歳から始めた書道を中学・高校でも止めることなく継続し

てきました。

今回の受賞作品は、1枚の和紙に1行約150字、全体で5300字の大作、金剛般若経です。

家族の励ましもあって、1日2時間休日は8時間、4ヶ月もの長きにわたって一心に紙に向かう日々の結果でした。

1・2年生の時は、生徒会の会計をまかされ、予算配分や東雲祭の実務を取り仕切るなど、日常は大変忙しかったし、今は大学受験勉強中の忙しい中でも、筆を休めることはないそうです。

最高賞の受賞ということで産経新聞にも大きく取り上げられました(H19.1/17朝刊)

また、千葉市教育委員会から教育文化スポーツ功労賞の表彰も受けました。ちなみに、お母さんのさと美さんも本校の卒業生(S52卒)です。

千葉県高等学校
総合文化祭合同写真展「銀賞」

長谷川淳子さん(2年)は、高



受賞作品

校入学後に始めた部活動ですが、撮影のために出かけまわるのも楽しいとか。今回、金賞二席に次ぐ銀賞一席に選ばれ、山梨県で開催された第13回関東地区高等学校写真展に千葉県代表作品として出品されました。(H19.1/30~2/4)

スポーツ写真は被写体が瞬時に変化するので、動きが伝わる作品はとても難しいそうです。受賞作品は平成17年の大晦日三ツ沢球場で行われた第84回全国高校サッカー選手権大会の一コマ、常葉学園橘高校(静岡)対滝川第二高校(兵庫)の試合です。

産経新聞に掲載された喜びの千葉さん



家族支えに一筆入魂

夢がたり

B 部門 銀賞

◆傘修理、刃とぎ、表札、ネーム彫刻

◆高女2・3回生同期会 (昭和21年・22年3月卒)

平成18年6月17日(土)



千葉ワシントンホテル レストラン銀座にて 26名参加
高女2・3回生は入学が一緒(4年制で発足)でしたが、その後、学校制度が改定され、卒業年度は異なりますが、同期生に変わりはないという気持ちで毎年定期的に同期会をしてまいりました。

今回は「喜寿の会」ということで声を掛け合って集まりましたところ、みんなの明るい笑顔、元気な声が満ち溢れ、心ゆくまで喜びに包まれた一日を過ごすことができました。これからの余生を楽しく送る上で欠くことができない大きな活力をいただけたものと感激いたしました。進んでお世話を受け持ち、ご尽力くださった方々の細やかなお心使いやご協力下さった方々に感謝申し上げます。

今回は平成19年6月16日(6月第3土曜日)千葉ワシントンホテル・レストラン銀座にて自主的に昼食をいただきながら歓談したいと思います。

(高女第2回S21卒 小林美代子)



◆昭和32年卒(高校第9回)同期会

平成18年6月10日(土)

千葉市京成ホテル「ミラマーレ」にて開催。

編集部からお願い

■同期会、クラス会、部活OB会など、母校卒業者の集まりの予告、実施報告(写真歓迎)がありましたら、「会名」「時と場所」「参加人員」「幹事感想」「集合写真」など母校同窓会事務局までお知らせ下さい。(原稿・写真は原則としてお返しできませんのでご承知おきください)

<幹事から一言>

1年8ヶ月ぶりの開催です。当日はお世話になった恩師の白銀先生、井下田先生、松本正子先生を囲み、70名の同期生とともに学生時代を懐かしく思い出しながら語り合い、楽しいひと時を過ごしました。67歳、68歳になりましても参加者は皆元気でしたが、年を重ねるたびに多くの友が宇宙へと旅立っていることを思いますととても寂しく悲しい限りです。

母校の発展を祈念し、次回は古希の歳になる平成20年6月(予定)に再会を約しました。

(幹事代表 高橋一郎)

◆昭和34年卒(高校第11回) 3E井下田ルームクラス会

平成19年1月26日(金)

千葉市「ほていや」にて



旧3年E組担任だった井下田 博先生を囲み13名が集まりクラス会を開催しました。大半はサンデー毎日の方々ばかりですが、韓国・中国をまたに元気で働いているものもあり、久しぶりの邂逅に話がつきません。

66歳の人たちが一瞬で18歳の高校生に戻れる不思議なタイムカプセル……クラス会。

これからも、元気で会を重ねようと誓い合ったひとときでした。

<幹事から一言>

毎年1月に定期的に集まることにしましたが、急に風邪を引いたり、ぎっくり腰になったりと突発的なことは覚悟の上で、これからも継続していこうと思います。

(幹事 井戸川 浩)

みどりのお山にかこまれた幼稚園 若松台幼稚園

当園は、3千坪を越える園庭、四方木々に囲まれた自然の中で、

- ・友だちとのふれあいを大切にする。
- ・情操豊かな心と自立心の芽生えを養う。

集団の中で基本的習慣は勿論のこと、望ましい経験を積み、個性を伸ばすことを念頭に日々研鑽を重ね、年齢に応じ同じ経験をさせ、どの子にも喜びと自信が持てる保育活動を展開し、毎日の積み重ねと愛情を持って元気・根気・やる気がそだつよう日々努力しています。



理事長 田中 信行(昭45卒)

〒264-0021 千葉市若葉区若松町401
TEL 043-232-5177
FAX 043-232-5178

創立100周年記念 70周年記念事業基金

同窓会活動維持基金

引き続いて ご協力を

60周年記念事業では多くの皆様からのご芳志をいただき、誠にありがとうございました。また、同窓会活動維持基金によりまして今回も皆様にご協力をすることができました。

メール便の負担が大きい中、毎年、継続的に会報を発行するためには、一人でも多くの方々からのご賛同を得て基金の充実を図らなければなりません。

お手数ながら、同封の郵便振替用紙にて1口2千円、何口でも結構ですので、ご送金下さいようお願い申し上げます。

郵便振替口座 00160-8-148932 千葉東高等学校同窓会

編・集・後・記

第11号をお届けいたします。

通信制が大宮に移転し母校は普通課程のみになりました。しかしながら同窓会は、当然のことながら、衛生看護科同様、これまでの通信制卒業者を会員として含むことはいまでもありません。

飛躍的な大学合格率などにより、進学ブランド校としての母校は、更に2学期制、単位制の導入などによりこれからも大きく変わっていくでしょう。母校の動向から目が離せません。

どうか、これからも「シャロンの花」をご愛読下さい。

(編集委員一同)

ギャレックスチバ株式会社

一営業品目一

学校体育衣料／スポーツ用品／カバン・校章
名札・腕章・旗／トロフィー／インテリア用品

オリジナルTシャツ
トレーナー
イベントジャンパー

プリント加工

代表取締役

澤田 繁信

(昭和46年卒)

〒260-0834 千葉市中央区今井3-1-9

TEL.043 (261) 4528

FAX.043 (265) 5446

E-mail: jericle@olive.ocn.ne.jp

きれいになる・元気になる自然食

マクロビオティック料理教室

講師 石井 ゆかり

(昭和51年3月卒)

※出張教室受け承ります。

TEL 043-294-9387 / FAX 043-294-9388

木造在来

特許第1833643号

鉄骨アーム工法

株式会社 石川建設

代表取締役 石川 公之

宅地建物取引主任者 (昭和45年卒)

松ヶ丘支店 千葉市中央区大森町477-3 ☎043(264)5111(代)

白旗支店 千葉市中央区白旗3-11-19 FAX043(264)5113

本社 千葉市中央区大森町438

千葉県知事 免許不動産(8)第4549号 建築(般8)第516号

発明者 石川 公之

特許 第1678947号 木造住宅の筋違窓

特許 第1833643号 2階建木造住宅の組立工法

パソコンの設定・ホームページ作成・ホームページレンタルなど……パソコン・ネットワーク関係

お気軽にご相談下さい。

ネットオフィス K

代表/加藤 光也 (昭和54年卒)

fax: 047-404-6429^h

URL: www.office-k.net

連絡先メールアドレス: infonigashi@kumasan.nu

アパマンショップ

NETWORK

賃貸 売買
土地活用



(財)日本賃貸管理協会
千葉市宅建協同組合員
千葉県知事免許(9)第5206号

ISO 9001 認証取得!

アパート・マンションお部屋探しは…



株式会社 高品ハウジング

代表取締役 山中 操 (昭和44年卒)

本店 千葉市若葉区高品町1585-1 TEL043-232-7342 FAX043-232-0696

都賀駅前支店 千葉市若葉区西都賀3-19-4 TEL043-290-1008 FAX043-287-0400

都賀支店 千葉市若葉区都賀3-4-1 TEL043-226-4521 FAX043-226-4520

四街道支店 四街道市大日460-1 TEL043-304-2820 FAX043-304-2821

千葉駅前支店 千葉市中央区弁天1-2-1 TEL043-206-1777 FAX043-206-1778